

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：32507

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770047

研究課題名(和文)1780-1830年代のフランスの都市構想における「流れ」の概念について

研究課題名(英文)On the notion of "flow" in the city planning from 1780s to 1830s in France

研究代表者

小澤 京子(Ozawa, Kyoko)

和洋女子大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：40613881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1780-1830年代のフランスの近代的都市空間に体现された時代特有の認識枠組を、「流れ」という鍵概念の下に明らかにした。具体的には、革命期からサン・シモン主義までの時代の都市構想において、「運搬・移動のための動線」や「建築物内の換気・循環」がいかに関与したか、結果としていかなる空間が計画されたかを明らかにした。さらに、都市構想・建築理論への同時代の生命科学・化学的言説の影響が、その背景にあったことを見出した。そして、以上のような都市構想と科学的知の連関が、「労働する身体の管理」や「時間の認識と効率的な活用」という「近代的」な生権力や時間感覚に、いかに作用していたのかを解明した。

研究成果の概要(英文)：In this research I analyzed the ideas embodied in the city planning from 1780s to 1830s in France. The key notion in my analysis is the "flow." Specifically I examined texts and illustrations on the lines of flow and on the air circulation inside the buildings to show how these ideas about "flow" are embodied and reflected in the city planning from the Age of Revolution to the age of Saint-Simonianism. I discovered that the influence of the contemporary scientific thoughts on the architectural theory gives some background. The conclusion of my research is that the scientific knowledge and the city planning acted in combination on the 'bio-power' (e.g. the discipline of the body, the control of the efficiency of work) .

研究分野：表象文化論、芸術学

キーワード：都市・建築史 社会思想史 サン・シモン主義 ユートピア構想 身体観の歴史 新古典主義 啓蒙主義 生政治と建築

## 1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする範囲は、これまで下記の分野に分断される形で研究されてきた。一つは、革命期の「幻視の建築家」たちに対する研究である。これは、モダニズムの先駆者やロマン主義の体現者として特権視する立場(E.カウフマン、H.ゼードルマイヤら 20世紀前半に多い)と、同時代の建築史の中に位置づける実証主義研究(D.ラブラ)との二つの流れに大別できる。

二つ目は、19世紀初頭の都市計画・国土計画についての実証的研究である。

三つ目は、「空想的社会主義者」(フーリエ、サン・シモン)に関する社会思想史や文学史からのアプローチである。各々の思想については、すでに多くの既往研究が存在する。フーリエの都市・建築構想に関しても、言及した研究は多い(代表的なものとしてピーチャー『シャルル・フーリエ伝』1986年、ドゥブー『フーリエのユートピア』1978年など)。また、サン・シモンにおける「ネットワーク」概念については、ミュソ(Pierre Mussot)による一連の研究がある(1997~2010)。19世紀のフランスの鉄道計画と当時のエンジニア教育、そして主にサン・シモン主義との影響関係については、北河大次郎による博士論文を基にした単著『近代都市パリの誕生』(2010)に一部言及がある。しかし、同時代・後代の「都市構想」に与えた影響を主題に据えた、本格的な研究は未だ存在しないのが現状である。

四つ目として、当時の生命体・有機体観についての科学史・科学哲学分野の諸研究があるが、これと都市・建築との通底性を論じたものは管見では存在しない。(生命科学と視覚芸術との認識共有については、主に18世紀が対象だが、B.M.スタフォードの一連の研究がある。)

本研究の独自性は、実現された都市計画とユートピア的都市構想を連続的に捉えた上で、当時の身体や時間をめぐる諸言説との通底性を考察するという、既往研究を縫合しその欠落部分を埋めつつ、より巨視的に「フランスにおける近代的都市観」を提示する点にあると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、次の4つのプロセスを経て、最終的には、フランスの近代的都市空間に体現された時代特有の認識枠組を、「流れ」という鍵概念の下に解明することを目標としている。

(1) ルドゥを中心に、絶対王制期から革命期の都市構想(テキストと図面)において「運搬・移動のための動線」や「建築物内の換気・循環」がいかにか論じられたか、また具体的にいかなる空間が計画されたかを明らかにする。

(2) 1で解明された特徴と、ルーヴル宮グランド・ギャルリやパサージュなどの実現された

回廊空間、フーリエの「ファランステール」における回廊的空間、サン・シモンと彼に影響された都市計画論における「流れ」という発想それぞれの共通点、影響関係、相違点を明らかにする。

(3) 2で明らかになった都市構想・建築理論への、同時代の生命科学・化学的言説の影響を分析し、当時の都市計画がいかなる科学的認識に立脚していたのかを解明する。

(4) 以上のような都市構想と科学的知の連関が、「労働する身体管理」や「時間の認識と効率的な活用」という、「近代的」な生権力や時間感覚といかに連動していたのかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 一次文献(当時の都市計画案、都市・建築教本、社会改革思想者の著作等)のアーカイブズ調査(主にパリ)と読解・分析

(2) 都市計画案(図面)のアーカイブズ調査(パリ、モンリオール等)とデータベース化、分析

(3) 二次文献(都市・建築史、社会思想史、文学史、科学史関連)の批判・検討

## 4. 研究成果

2014年度は、18世紀後半から19世紀前半にかけてのフランスの都市計画案・都市構想案の整理を行なった。特に「建築物や都市の構造を通じて、住民の身体、健康、性、労働をコントロールする」という思潮について、すでに調査済みのルドゥ(産業共同体を基盤とする理想都市構想)やサド(建築空間による性的身体訓育)、レティフ(性的身体を管理するための理想的娯楽建築)を参照しつつ、フーリエによる都市・建築構想を、彼の著作『四運動の試論』や『愛の新世界』を中心に研究した。

2015年度は、前年度に引き続き、18世紀から19世紀にかけてのフランスを中心とする都市計画・建築構想の言説と図版の調査・研究を行なった。具体的には、以下の通りである。

まず、サン・シモンやサン・シモン主義の思想を分析する上で重要な先行研究である、Pierre Mussotによる一連のサン・シモンとネットワークをめぐる研究の読解を行なった。次に、19世紀前半の都市計画・交通網整備を担った高等教育機関、国立理工学校や国立土木学校と、サン・シモン主義との関係を研究した。さらに、以前の研究の継続課題であり、本研究課題にとっての「前史」ともなる、ルドゥ、サド、および彼らと同時代の「建築を通じた社会改革案」の研究を深化させた。

期間延長後の2016年度は、計画の遅れを取り戻すことに注力しつつ、サン・シモン主義思想と19世紀前半の都市計画・交通網整備の基盤にある政策との分析を行った。並行して、ルドゥ、サド、レティフ、フーリエら

先行世代による「建築を通じた社会改革思想」との比較と影響関係分析を行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

小澤京子「瞬間と持続、暴力と審美化の間で：リスボン大震災からフランス革命にいたる時期の廃墟イメージ」、神奈川大学人文学研究所編、熊谷謙介編著『破壊のあとの都市空間：ポスト・カタストロフィーの記憶』青弓社、2017、80-111

小澤京子「人工知能の都市表象」、『10+1』オンライン版 2016年7月号、LIXIL 出版、2016

小澤京子「建築と衣服：装飾をめぐるアンビヴァレンス」、『ファッション史の愉しみ』読本』世田谷美術館、2016、32-42

小澤京子「人造美女の系譜学：ポストヒューマン的テクノロジーのジェンダー化をめぐる文化的想像力」、『現代思想』43(18) 2015、198-209

小澤京子「《ゴダールの 建築空間》の攪乱」、『ユリイカ』47-1(655) 2015、217-224

小澤京子「サド、建築家」、『ユリイカ』46-12(650) 2014、141-154

小澤京子「「イケメン」と「美しい男」：否定イケメン学の試み」、『ユリイカ』46-10(648) 2014、199-207

小澤京子「映画における服飾的細部と着崩される文体(スタイル)」、『ユリイカ』46-7(645) 2014、167-176

[学会発表](計7件)

小澤京子「Nocturnal Reveries in the Modern City: From Japanese Literature and Illustrations in the Early Showa Period」第20回国際美学会(ソウル大学) 2016

小澤京子「ピラネージ《牢獄》の奇妙さについて：透視図法の攪乱とモンタージュ」、長尾重武先生『ピラネージ《牢獄》論：描かれた幻想の迷宮』出版記念会ミニシンポジウム、武蔵野美術大学、2015

小澤京子「1980年代の日本における「遺棄された場所」のイメージ」ユートピア研究会、東京大学、2015

小谷真理、小澤京子、水島久光、小池隆太、

吉岡洋、ディスカッション「美少女とはいかなる記号なのか？」日本記号学会第35回大会「美少女の記号論」秋田公立美術大学、2015

小澤京子、ヴィヴィアン佐藤、鈴木了二、田中純、シンポジウム「建築/非建築の荒野で：廃墟・身体・生のポリティクス」東京大学、2015

大橋完太郎、小澤京子、北村紗衣、西條玲奈、清水晶子、藤崎剛人、鷺谷花、飯田麻結、大澤博隆、ワークショップ「人工知能とジェンダー」表象文化論学会第9回研究発表集会、新潟大学、2014

小澤京子「電子の時代のピュグマリオン：ポストヒューマン技術のジェンダー化をめぐる文化的想像力」表象文化論学会第9回大会、2014

[図書](計1件)

小澤京子『ユートピア都市の書法：クロード=ニコラ・ルドゥの建築思想』法政大学出版局、2017(印刷中)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

小澤京子(OZAWA, Kyoko)  
和洋女子大学・人文社会科学系・准教授  
研究者番号：40613881

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：

(4)研究協力者  
( )